

民舟録 2015-2018

[2014年以前の本はこちら](#)

2018.11.22

阿部龍太郎『信長はなぜ葬られたのか』
幻冬社新書 2018.

佐藤賢一『テンプル騎士団』
集英社新書 2018.

前者は、公家方の、勢力が強かったこと、
世界史的に、大航海時代におけるキリスト教の影響力が強かったこと、
秀吉の中国大返しにも、イエズス会などが関係していたこと、
信長の暗殺には、イエズス会や秀吉が関係していたこと、
知られている以上にキリスト教大名が多かったこと、
等、いろんなことが書いてありました。
後者では、元々十字軍の巡礼を守るために、テンプル騎士団ができたこと、
王の寄進などで莫大な富が入り、軍隊などを所持し、経済的なネットワークなどを
張り巡らしたこと、
中世から絶対王政（ローマ教会から王権、ナショナリズムへの移行の中で、
フランスフィリップ4世などが、王制の経済的維持のためにテンプル騎士団を
倒したことなどが書いてありました。

後者は、『ダ・ヴィンチコード』などとも関係することで、興味がありました。
歴史が新しく解釈される時代になってきたのかもしれません。

全体として、世界史的な視点が必要になってきたのかもしれません。
余計なことですが、そんな感じがしました。

桐野夏生『奴隸小説』文藝春秋 2015.
上田正昭『「古代学」とは何か—展望と課題—』藤原書店 2015.
D.マントン&D.A.ウェルチ（田所昌幸・林晟一訳）『キューバ危機—ミラー・イメージング
の罠—』中央公論社 2015.
阿刀田高『地下水路の夜』新潮社 2015.
桐野夏生『抱く女』新潮社 2015.
元少年A『絶歌—神戸連続児童殺傷事件』太田出版 2015.
芳川泰久『謎解き『失われた時を求めて』』新潮選書 2015.
金森修『科学の危機』集英社新書 2015.
M.スパーク（木村政則訳）『寝ても覚めても夢』河出書房新社 2015.
松尾義之『日本語の科学が世界を変える』筑摩書房 2015.

- H.クンズル（木原善彦訳）『民のいない神』白水社 2015.
- 小宮羊『漱石の新婚旅行』海鳥社 2015.
- 飯嶋和一『狗賓童子の島』小学館 2015.
- J.チアン（川副智子訳）『西皇后—近代中国の創始者—上下』講談社 2015.
- 中条省平『マンガの論点—21世紀日本の深層を読む—』幻冬舎新書 2015.
- 日本史資料研究会編『秀吉研究の最前線』洋泉社 2015.
- 天児慧『「中国共産党」論』NHK出版新書 2015.
- 里見繁『死刑冤罪』インパクト出版会 2015.
- 山本義隆『私の1960年代』金曜日 2015.
- 有元伸子・久保田裕子編『21世紀の三島由紀夫』翰林書房 2015.
- 中村修也『天智朝と東アジア—唐の支配から律令国家へ—』NHKブックス 2015.
- 梯久美子『愛の顛末—純愛とスキャンダルの文学史—』文藝春秋 2015.
- 柴山哲也『真珠湾の真実—歴史修正主義は何を隠したか—』平凡社新書 2015.
- 長谷川櫻『芭蕉の風雅—あるいは虚と実について—』筑摩選書 2015.
- 金惠京『柔らかな海峡—日本・韓国和解への道—』集英社インターナショナル 2015.
- 吉村武彦『蘇我氏の古代』岩波新書 2015.
- 倉本一宏『蘇我氏—古代豪族の興亡』中公新書 2015.
- 野口武彦『花の忠臣蔵』講談社 2015.
- 乙川優三郎『ロゴスの市』徳間書店 2015.
- 張予思『革命とパンダ』イースト・プレス 2015.
- 荻原雄一『〈漱石の初恋〉を探して—井上眼科の少女』とは誰か—』未知谷 2016.
- 石井公成『聖徳太子—実像と伝説の間—』春秋社 2016.
- 桐野夏生『バラカ』集英社 2016.
- 志野靖史『信長の肖像』朝日新聞出版 2015.
- 諸田玲子『帰蝶』P H P 研究所 2015.
- 孫崎紀子『「かぐや姫」誕生の謎—渡来王女と“道真の祟り”』現代書籍 2016.
- 沼野充義『チェーホフ—七分の絶望と三分の希望—』講談社 2016.
- 有馬弘純『漱石文学の視界』論創社 2016.
- 上田正昭『古代史研究 七十年の背景』藤原書店 2016.
- 橋本陽介『日本語の謎を解く』新潮選書 2016.
- 磯山友幸『「理」と「情」の狭間』日経BP社 2016.
- 湯川豊『丸谷才一を読む』朝日新聞出版 2016.
- 瀬戸内寂静『求愛』集英社 2016.
- 望月諒子『フェルメールの憂鬱』光文社 2016.
- 三崎亜記『ニセモノの妻』新潮社 2016.
- ソーントン不破直子『戸籍の謎と丸谷才一』春風社 2013.
- 直木孝次郎『武者小路実篤とその世界』塙書房 2016.
- 樺原辰郎『痴人の愛』を歩く』白水社 2016.
- 加瀬英明監修『岸信介 最後の回想』勉誠出版 2016.
- 中村文則『私の消滅』文藝春秋 2016.
- 桐野夏生『猿の見る夢』講談社 2016.
- 浅田次郎『帰郷』集英社 2016.
- 木村勲『鉄幹と文壇照魔鏡事件』国書刊行会 2016.

押田信子『兵士のアイドル』旬報社 2016.
子安宣邦『「大正」を読み直す』藤原書店 2016.
檀上寛『天下と天朝の中国史』岩波新書 2016.
G.ブロンソン・リー（田中秀雄訳）『満州国建設の正当性を弁護する』草思社 2016.
佐野眞一『唐牛伝』小学館 2016.
G.リブ（鳥取絹子訳）『ピカソになりきった男』キノブックス 2016.
R.L.コリー（正岡和恵訳）『シェイクスピアの生ける芸術』白水社 2016.
K.バーミンガム（小林玲子訳）『ユリシーズを燃やせ』柏書房 2016.
堤未果『政府はもう嘘をつけない』角川新書 2016.
伊東光晴『ガルブレイス』岩波新書 2016.
中村稔『西鶴を読む』青土社 2016.
十川信介『夏目漱石』岩波新書 2016.
平野明夫編『家康研究の最戦線』洋泉社新書 2016.
吉田一彦『『日本書記』の呪縛』集英社新書 2016.
佐々木英昭『夏目漱石』ミネルヴァ書房 2016.
P.ミルワード（橋本修一訳）『ミルフード先生のシェイクスピア講義』彩流社 2016.
藤井巖喜・稻村公望・茂木弘道『日米戦争を起こしたのは誰か』勉誠出版 2016.
高橋睦郎『在りし、在らまほしかりし三島由紀夫』平凡社 2016.

出版年が 2014 年以前の本

D.カイバード『『ユリシーズ』と我ら』水声社 2011.
U.オコナー編著『われらのジョイス』みすず書房 2009.
宮田恭子『ジョイスのパリ時代—『フィネガンズ・ウェイク』と女性たち—』みすず書房 2006.
結城英雄『ジョイスを読む—二十世紀最大の言葉の魔術師—』集英社新書 2004.
M.アトウッド『ペネロピアド』角川書店 2005.
丸谷才一『持ち重りする薔薇の花』新潮社 2011.
森功『狡猾の人—防衛省を喰い物にした小物高級官僚の大罪—』幻冬舎 2011.
司修『本の魔法』白水社 2011.
水林章『『カンディードー＜戦争＞を前にした青年—』みすず書房 2005.
鳥飼久美子『「英語公用語」は何が問題か』角川 one テーマ 21 角川書店 2011.
富松保文『アリストテレス—はじめての形而上学—』NHK ブックス 2012.
A.S.ボザマンティエ&I.レーマン『偏愛的数学—驚異の数—』岩波書店 2011.
A.S.ボザマンティエ&I.レーマン『偏愛的数学—魅惑の図形—』岩波書店 2011.
YEO・エイドリアン『πとeの話—数の不思議—』青土社 2008.
岩瀬達哉『血族の王—松下幸之助とナショナルの世紀—』新潮社 2011.
堤未果『政府は必ず嘘をつく—アメリカの「失われた 10 年」が私たちに警告すること—』角川 SSC 新書 2012.
田中英道『「写楽」問題は終わっていない』祥伝社新書 2011.
今田高俊・鈴木正仁・黒石晋編『社会システム学を目指して』ミネルヴァ書房 2011.
橋川武郎『歴史学者、経営の難問を解く』日本経済新聞出版社 2012.
佐藤直樹『40 年後の『偶然と必然』—モノーが描いた生命・進化・人類の未来—』東京大

学出版会 2012.

西村賀子『ホメロス『オデュッセイア』—<戦争>を後にした英雄の歌—』岩波書店 2012.

亀山郁夫『謎解き『悪霊』』新潮社選書 2012.

ジャンバッティスタ・ヴィーコ『自伝』平凡社ライブラリー 2012.

J.ジョイス『フィネガンズ・ウェイク』(宮田恭子・編訳) 集英社 2004.

渡邊義浩『魏志倭人伝の謎を解く—三国志から見る邪馬台国—』中公新書 2012.

ボッカッチョ『デカメロン』(平川祐弘訳) 河出書房新社 2012.

J.コーベン『チンパンジーはなぜヒトにならなかつたのか—99%遺伝子が一致するのに似ても似つかぬ兄弟—』講談社 2012.

川勝平太『「鎖国」と資本主義』藤原書店 2012.

渡部直己『日本小説技術史』新潮社 2012.

S.グリーンブラット『1417年、その1冊がすべてを変えた』柏書房 2012.

(*The Swerve-How the World Became Modern*)

上田正昭『私の古代日本史 上下』新潮選書 2012.

堀江義人『毛沢東が神棚から下りる日—中国民主化のゆくえ—』平凡社 2013.

加藤治郎『将棋は歩から 上中下』東京書店 1999.

小堀桂一郎『森鷗外—日本はまだ譜請中だ—』ミネルヴァ書房 2013.

池田美紀子『夏目漱石一眼は識る東西の字—』国書刊行会 2013.

桐野夏生『ハピネス』光文社 2013.

米長邦雄『将棋の天才たち』講談社 2013.

鳥居民『それでも戦争できない中国』草思社 2013.

溝口敦・荒井香織編著『ノンフィクションの「巨人」佐野眞一が殺したジャーナリズム』宝島社 2013.

O.ストーン・P.カズニック『もう一つのアメリカ史1・2・3』早川書房 2013.

1. 「2つの世界大戦と原爆投下」

2. 「ケネディと世界存亡の危機」

3. 「帝国の緩やかな黄昏」

竹中克久『組織の理論社会学—コミュニケーション・社会・人間—』文眞堂 2013.

K.ヒル&L.マッカビン『ミセス・ケネディ』原書房 2013.

佐藤一『松本清張の陰謀—『日本の黒い霧』に仕組まれたもの—』草思社 2006.

上野誠『書淫日記—万葉と現代をつないで—』ミネルヴァ書房 2013.

野口武彦『慶喜のカリスマ』講談社 2013.

中野明『グローブトロター—世界漫遊家が歩いた明治日本—』朝日新聞出版 2013.

堤未果『(株)貧困大国アメリカ』岩波新書 2013.

F.スタントン『歴史を変えた外交交渉』原書房 2013.

M.ケリガン『図説 アメリカ大統領—権力と欲望の230年史—』原書房 2012.

志賀浩二『大人のための数学』全7巻 紀伊国屋書店 2007-2009.

第1巻『数と量の出会い—数学入門—』2007.

第2巻『変化する世界をとらえる—微分の考え方、積分の見方』2007.

第3巻『無限への飛翔—集合論の誕生—』2008.

第4巻『広い世界へ向けて—解析学の展開—』2008.

第5巻『抽象への憧れ—位相空間：20世紀数学のパラダイム—』2008.

第6巻『無限をつつみこむ量ールベーグの独創一』2008.

第7巻『線形という構造へ一次元を超えて一』2009.

N.クリフ(2011)『ヴァスコ・ダガマの「聖戦」』白水社 2013.

川口マローン恵美『住んでみたドイツ—8勝2敗で日本の勝ち』講談社α新書 2013.

高橋由明『企業経済学の基礎—企業目的、歴史理論、方法一』中央大学出版部 2013.

桐野夏生『だから荒野』毎日新聞社 2013.

遠山美都男『大化革新と蘇我氏』吉川弘文館 2013.

盛山和夫『社会学の方法的立場—客觀性とはなにか—』東京大学出版会 2013.

S.グリーンプラット(高田茂樹訳)『シェイクスピアの自由』みすず書房 2013.

立木鷹志『時間の本』国書刊行会 2013.

山下和也『システムという存在』晃洋書房 2013.

西成彦『胸騒ぎの鴎外』人文書院 2013.

中村明『吾輩はユーモアである—漱石の誘笑パレード一』岩波 2013.

明智憲三郎『本能寺の変—431年目の変一』文芸社文庫 2013.

加藤康男『紫禁城の虜—ラストエンペラー私生活秘聞一』幻冬舎 2014.

高山宏『夢十夜を十夜で』はとり文庫 2011.

藤原章生『資本主義の「終わりの始まり」—ギリシャ、イタリアで起きていること一』新潮選書 2012.

秋田巖『写楽の深層』NHKブックス 2014.

川本三郎『成瀬巳喜男—映画の面影一』新潮社 2014.

渡辺惣樹『朝鮮開国と日清戦争—アメリカはなぜ日本を支持し、朝鮮を見限ったか—』草思社 2014.

野口武彦『忠臣蔵まで—「喧嘩」からみた日本人一』講談社 2013.

小野俊太郎『本当はエロいシェイクスピア』彩流社 2013.

R.パルバース『驚くべき日本語』(早川敦子訳)集英社インターナショナル 2014.

T.イーグルトン『アメリカ的、イギリス的』(大橋洋一・吉岡範武訳)河出ブックス 2014.

小早川明子『「ストーカー」は何を考えているか』新潮新書 2014.

佐高信『未完の敗者 田中角栄』光文社 2014.

石原千秋(編)『夏目漱石『こころ』をどう読むか』河出書房新社 2014.

小林史憲『テレビに映る中国の97%は嘘である』講談社α新書 2014.

菅野昭正・編『書物の達人 丸谷才一』集英社新書 2014.

高田博行『ヒトラーの演説—熱狂の真実一』中公新書 2014.

平川祐弘『日本人に生まれて、まあよかった』新潮新書 2014.

橋木俊詔『ニッポンの経済学部』中公新書ラクレ 2014.

木村榮一『謎解きガルシア=マルケス』新潮選書 2014.

小川和也『儒学殺人事件—堀田正俊と徳川綱吉一』講談社 2014.

ラモン・ゴメス・デ・ラ・セルナ『乳房抄』(平田渡 訳)開催大学出版部 2008.

篠原健一『アメリカ自動車産業—競争力復活をもたらした現場改革一』中公新書 2014.

ガルシア・マルケス + P.A.メンドーサ『グアバの香り』(木村榮一 訳)岩波書店 2013.

アルベルト・マングエル『読書礼賛』白水社 2014.

伊藤光晴『アベノミックス批判』岩波書店 2014.

小泉凡『怪談四代記一八雲のいたずら一』講談社 2014.

- 桐野夏生『夜また夜の深い夜』幻冬舎 2014.
- 上田正昭『日本古代史をいかに学ぶか』新潮選書 2014.
- 横手慎二『スターリン——「非道の独裁者」の実像—』中公新書 2014.
- 堤未果『沈みゆく大国アメリカ』集英社新書 2014.
- T.ブルック（本野英一訳）『フェルメールの帽子』岩波書店 2014.
- 小林康夫・大澤真幸『「知の技法」入門』河出書房新社 2014.
- 松本紘『京都から大学を変える』祥伝社新書 2014.
- 日本史資料研究会編『信長研究の最前線』洋泉社 2014.
- L.コワコフスキ『哲学は何を問うてきたか』みすず書房 2014.
- 福永文夫『日本占領史 1945-1952—日本・ワシントン・沖縄—』中公新書 2014.
- R.ドーア『幻滅—外国人社科学者が見た戦後日本 70年—』藤原書店 2014.
- 荻原雄一『漱石の初恋』未知谷 2014.
- J.W.ダグラス『ジョン・F・ケネディはなぜ死んだのか—語りえない者との闘い—』同時代社 2014.
- 伊東光晴『ケインズ』岩波新書 1962.
- 伊東光晴『シュンペーター』岩波新書 1993.